

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 次の文章は、簿記部に所属する先輩と簿記を勉強し始めた1年生の後輩との会話である。これを読み、5ページから7ページの問い(問1~9)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

後輩：期末試験に向けて、今学期の復習をしていたんですが、仕訳がわからなくなってしまって…。「個人企業の事業主が、現金¥300を元入れして、文房具店を開業した。」というとき、なぜ仕訳の貸方が資本金になるんですか？

先輩：それは資本金が資本の勘定で、資本の増加は貸方に記入するからだよ。

後輩：なるほど。それ以外にも、貸方に記入するものはあるんですか？

先輩： がそうだね。

後輩：それぞれの勘定で借方・貸方のどちらに記入するかは、どうやって覚えればいいんでしょうか？

先輩：収益と費用の発生の記入ならば、 での表示と同じというように考えればいいよ。

後輩：それじゃあ、収益は貸方に記入されることになるんですね。

先輩：基本的にはそうだけど、そうならないこともあるよ。たとえば、 ときには収益が借方に記入されるよ。ほかにも、(i)決算の本手続きにおいて、収益の各勘定の残高を()勘定に振り替えるときにも借方に記入されるね。たとえば、決算日が4月30日で、次の商品売買益勘定と受取利息勘定の残高を振り替えるときは、どんな仕訳になるかな？

商品売買益				受取利息			
	4/8	現 金	600		4/25	現 金	20
	16	売 掛 金	900				

後輩： でしょうか？

先輩：そのとおりだね。それじゃあ、この仕訳にもとづいて勘定口座に記入してみようか。

後輩： するんですね。先輩、 の仕訳を した後の()勘定は、これであっていますか？

()

4/30 諸 口 1,520

先輩：おいしいね。()勘定に **カ** するとき、摘要欄に「諸口」と記入しないよ。

後輩：え！なぜですか？ たしか、相手科目が二つ以上ある場合は、「諸口」とするように教わったはずなのに…。

先輩：()勘定のような **キ** 勘定は、記入されている金額の内容を明らかにするために、相手科目と金額を個別に記入するんだよ。

後輩：**キ** 勘定への記入は、なんだか特別なんですね。

先輩：そうだね。個人企業の決算において、()勘定の貸方に残高が生じた場合には当期純利益を意味するので、⁽ⁱⁱ⁾ 資本金勘定の貸方に振り替えるよ。

後輩：ということは、これも資本の増加を意味しているんですね。でも、事業主による元入れと何が違うんでしょうか？

先輩：いいところに気がついたね。経営活動によって収益や費用を発生させる〔 **I** 〕と、出資者の払い込みなどの〔 **II** 〕とは、明確に区別しなくてはならないんだ。そうしないと、利益が正しく計算されなくなるからね。

後輩：利益の計算といえば、取引を複式簿記で記録するかぎり、⁽ⁱⁱⁱ⁾ 収益総額から費用総額を差し引く方法と期末資本から期首資本を差し引く方法で、利益の金額が一致するんでしたよね。

先輩：そのとおり。よく勉強しているね。ただし、期中の〔 **II** 〕を考慮しないと一致しないこともあるよ。じゃあ試験がんばってね。

問 1 会話文における **ア** に当てはまる取引要素を、次の解答群のうちから一つ選べ。

ア の解答群

- | | |
|---------|---------|
| ① 資本の減少 | ④ 資産の減少 |
| ② 負債の減少 | ③ 費用の発生 |

問 2 会話文における **イ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

イ の解答群

- | | |
|----------------|--------------|
| ① 損益計算書 | ④ 貸借対照表 |
| ② キャッシュ・フロー計算書 | ③ 株主資本等変動計算書 |

簿記・会計

問 3 会話文における **ウ** に当てはまる取引を、次の解答群のうちから一つ選べ。

ウ の解答群

- | | |
|-----------------|---------------|
| ① 手数料を受け取った | ② 本月分の家賃を支払った |
| ③ 売り上げた商品が返品された | ④ 売掛金を回収した |

問 4 会話文における下線部(i)について、決算の本手続きに含まれないものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **エ**

エ の解答群

- | | |
|------------|------------------|
| ① 繰越試算表の作成 | ② 収益・費用の各勘定の締め切り |
| ③ 合計試算表の作成 | ④ 資産・負債の各勘定の締め切り |

問 5 会話文における **オ** に当てはまる仕訳を、次の解答群のうちから一つ選べ。

オ の解答群

- | | | |
|-------------------|-----------------|---------|
| ① (借) 損 益 1,520 | (貸) 商品売買益 1,500 | 受取利息 20 |
| ② (借) 資 本 金 1,520 | (貸) 商品売買益 1,500 | 受取利息 20 |
| ③ (借) 商品売買益 1,500 | (貸) 資 本 金 1,520 | 受取利息 20 |
| ④ (借) 商品売買益 1,500 | (貸) 損 益 1,520 | 受取利息 20 |

問 6 会話文における **カ** ・ **キ** に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

カ ・ **キ** の解答群

① 小 書 き	② 訂 正	③ 転 記
④ 統 制	⑤ 評 価	⑥ 集 合

問 7 会話文における下線部(ii)に関連して、個人企業の資本金勘定の借方に記入される取引を、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ク**

ク の解答群

① 事業主が現金を追加元入れた。
② 決算にあたり、引出金勘定の残高を資本金勘定に振り替えた。
③ 事業税の第 2 期分を、現金で納付した。
④ 得意先に商品を売り渡し、代金は掛けとした。

問 8 会話文における〔 I 〕および〔 II 〕に当てはまる用語の組合せとして正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。 **ケ**

ケ の解答群

① 〔 I 〕 資本取引	〔 II 〕 損益取引
② 〔 I 〕 損益取引	〔 II 〕 資本取引
③ 〔 I 〕 出金取引	〔 II 〕 損益取引
④ 〔 I 〕 損益取引	〔 II 〕 入金取引

問 9 会話文における下線部(iii)「収益総額から費用総額を差し引く方法」は何と呼ばれるか、次の解答群のうちから一つ選べ。 **コ**

コ の解答群

① 直接法	② 財産法
③ 分記法	④ 損益法

簿記・会計

B 個人企業である福岡商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、3伝票制を採用しており、商品売買取引は3分法により記帳している。次の資料1・資料2にもとづいて、9ページから11ページの間(問1～6)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

資料1 ×5年12月1日におけるすべての取引を起票した伝票(略式)

()伝票		ス伝票	
売掛金	130	買掛金	20
当座預金	サシ	支払家賃	95
仮払金	20		
振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
売掛金	150	売上	150
仕入	120	買掛金	120
旅費	()	仮払金	()

(注) 同じ種類の伝票を重ねて表示してある。

資料2 ×5年12月1日におけるセ

セ		×5年12月1日		No. 1201	
借方	元丁	勘定科目	元丁	貸方	
230	(現金	(115	
	省	当座預金	省	()	
ソタ0		売掛金		()	
()		仮払金		200	
		買掛金		()	
		売上		150	
120	略	仕入	略		
95		支払家賃			
チツ0	(旅費	(
795				795	

問 1 資料 1 の ス に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

ス の解答群

① 入金	② 出金
③ 仕入	④ 売上

問 2 資料 2 の セ に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

セ の解答群

① 残高試算表	② 精算表
③ 棚卸表	④ 仕訳集計表

問 3 資料 1 の サ ・ シ , 資料 2 の ソ ~ ツ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 4 買掛金勘定について、前月繰越高が ¥ 60 であったとき、× 5 年 12 月 1 日の取引を記帳した後の残高は、¥ テ ト 0 となる。 テ ・ ト に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

簿記・会計

問 5 次の(1)~(3)の伝票(略式)は、×5年12月2日の取引を起票したものである。**ナ** ~ **ヌ** に当てはまる勘定科目を、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

(1) 商品券¥100を発行し、代金は現金で受け取った。

()伝票	
ナ	100

(2) 給料¥320の支払いにあたり、所得税の源泉徴収額¥30を差し引いて、残額を現金で支払った。

()伝票		振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
給	料	()	30	ニ	30
	290				

(3) さきに熊本商店から受け取っていた約束手形¥300を取引銀行で割引引き、割引料を差し引かれた手取金¥280は当座預金とした。

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
当座預金	280	受取手形	280

振替伝票(借方)		振替伝票(貸方)	
()	20	ヌ	20

ナ ~ **ヌ** の解答群

- | | | |
|---------|----------|----------|
| ① 受取手形 | ② 従業員立替金 | ③ 現金 |
| ④ 他店商品券 | ⑤ 当座預金 | ⑥ 租税公課 |
| ⑦ 商品券 | ⑧ 手形売却損 | ⑨ 所得税預り金 |

問 6 福岡商店が 5 伝票制(商品売買取引は、すべていったん掛け取引として処理する)を採用していた場合、振替伝票に記入する必要がある取引を、次の解答群のうちから一つ選べ。 ネ

ネ の解答群

- ① 商品 ¥ 200 を売り渡し、代金のうち ¥ 150 は現金で受け取り、残額は掛けとした。
- ② 商品 ¥ 200 を売り渡し、代金は掛けとした。
- ③ 商品 ¥ 200 を仕入れ、代金はさきに支払ってある内金 ¥ 50 を差し引き、残額は掛けとした。
- ④ 商品 ¥ 200 を仕入れ、代金は現金で支払った。

簿記・会計

第2問 個人企業である新潟商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、複合仕訳帳制度を採用しており、普通仕訳帳のほか、当座預金出納帳、仕入帳および売上帳を特殊仕訳帳として用いている。ただし、特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさずに、毎月末に行っている。なお、補助簿として、売掛金元帳、買掛金元帳を用いている。

後の資料1～資料6にもとづいて、次の問い(問1～3)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて千円である。なお、()は各自で考えること。

(解答記号 ア～ハ)(配点 30)

問1 資料3のウ～オに当てはまる勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ウ～オの解答群

- | | | |
|--------|---------|---------|
| ① 当座預金 | ④ 受取手形 | ⑦ 未達商品 |
| ② 未着商品 | ⑤ 手形貸付金 | ⑧ 前払金 |
| ③ 支払手形 | ⑥ 仕入 | ⑨ 手形借入金 |

問2 資料1のア・イ、資料4のカ～サ、資料5のシ～チ、資料6のツ～ノに当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問3 複合仕訳帳制度の特徴に関する説明として誤っているものを、次の解答群のうちから一つ選べ。ハ

ハの解答群

- ① 複数の仕訳帳を用いるので、仕訳の記帳を複数の担当者に分担させることができる。
- ② 普通仕訳帳に合計仕訳を行い、総勘定元帳に合計転記する方法もある。
- ③ 特殊仕訳帳では、相手勘定科目と金額を記入するだけで仕訳を行ったことになるので、仕訳の記帳が能率的になる。
- ④ 総勘定元帳および補助元帳に、定期的に合計転記する。

資料1 ×5年2月末における勘定残高(一部)

当座預金	¥ 210	受取手形	¥ 170	売掛金	¥ 400
手形貸付金	¥ 70	支払手形	¥ 250	買掛金	¥ 240
売上	¥ 1,480	受取利息	¥ 10	仕入	¥ 1,080
発送費	¥ 120	支払家賃	¥ ア イ		

資料2 ×5年3月中の普通仕訳帳に記入されたすべての取引

- 6日：京都商店から売掛金の回収として、かねて当店が富山商店に商品代金の支払いのために振り出していた約束手形¥120を受け取った。
- 13日：富山商店への買掛金の支払いのために、石川商店あての為替手形¥50を振り出し、石川商店の引き受けを得て、富山商店に渡した。
- 16日：富山商店に月末到着の予定で商品¥80を注文していたが、同店が取り組んだ荷為替¥60を取引銀行から呈示されたので、これを引き受け、船荷証券を受け取った。
- 28日：×5年1月に石川商店へ¥70を貸し付け、同額の約束手形を受け取っていたが、支払期日の延期の申し入れがあり、当店はこれを承諾し、利息¥5を加えた新しい約束手形を受け取り、旧手形と交換した。

資料3 ×5年3月中の普通仕訳帳

普通仕訳帳

×5年		摘 要	元 丁	借 方	貸 方
3	6	(ウ) (売 掛 金)	(120	120
	13	(買 掛 金) ()	省	50	50
	16	(エ) 諸 口 () (買 掛 金)		80	60 20
	28	(オ) 諸 口 (手形貸付金) ()	略	()	70 ()
)	

(注) 小書きは省略してある。

簿記・会計

資料4 ×5年3月中の取引を記入した特殊仕訳帳の記入内容

当座預金出納帳

(借方) 売掛金欄 ¥() 〔内訳：石川商店 ¥()〕 京都商店 ¥ 170〕 諸口欄 ¥() 〔内訳：売上 ¥()〕 受取手形 ¥ 350〕 <hr/> 合 計 ¥ カキ 0	(貸方) 買掛金欄 ¥() 〔内訳：富山商店 ¥ 60〕 青森商店 ¥()〕 諸口欄 ¥ 630 〔内訳：仕入 ¥ 260〕 支払手形 ¥ 270〕 発送費 ¥ 70〕 支払家賃 ¥ 30〕 <hr/> 合 計 ¥ 790
--	---

仕入帳

買掛金欄 ¥ 200
〔内訳：富山商店 ¥ 140〕
青森商店 ¥()〕
諸口欄 ¥()
〔内訳：当座預金 ¥ 270 〕
支払手形 ¥ 140〕
工 ¥ 80〕
純仕入高 ¥()

売上帳

売掛金欄 ¥()
〔内訳：石川商店 ¥ 180〕
売上値引き ¥ 40〕
京都商店 ¥()〕
諸口欄 ¥ 500
〔内訳：当座預金 ¥ 300〕
受取手形 ¥ 200〕
総売上高 ¥()
売上値引高 ¥()
純売上高 ¥ コサ 0

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料5 ×5年3月末における売掛金元帳および買掛金元帳(すべて)

売掛金元帳

石川商店		京都商店	
3/1 前月繰越 130 9 売り上げ 180 <hr/> 310	3/10 売上値引き 22 13()() 25 当座預金 150 31 次月繰越 70 <hr/> 310	3/1 前月繰越() 24 売り上げ 130 <hr/> ()	3/6 () 120 29 当座預金 170 31 次月繰越 270 <hr/> ()

買掛金元帳

富山商店		青森商店	
3/13 () 27 26 当座預金() 31 次月繰越 150 <hr/> ()	3/1 前月繰越 100 10 仕入れ 140 16()() <hr/> ()	3/12 当座預金 100 31 次月繰越() <hr/> ()	3/1 前月繰越() 20 仕入れ 60 <hr/> ()

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料6 ×5年3月末における残高試算表

残高試算表

×5年3月31日

借方	元 丁	勘定科目	貸方
390	（	当座預金	
ツ テ		受取手形	
()		売掛金	
	省	貸倒引当金	10
100		繰越商品	
()		手形貸付金	
600		備品	
		支払手形	60
		買掛金	ニ 又 0
		資本金	820
	略	売上	2,250
		受取利息	ネ ノ
1,760		仕入	
ト ナ 0		発送費	
90	（	支払家賃	
3,405			3,405

簿記・会計

第3問 北海道商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)に関する次の

資料1 ~ 資料5 にもとづいて、19 ページの問い(問1~4)に答えよ。ただし、金額の単位は、別途指示してある箇所を除き、すべて万円である。なお、() は各自で考えること。〔解答記号 **ア** ~ **ハ** 〕(配点 30)

資料1 ×5年3月末における決算整理前残高試算表

残高試算表

×5年3月31日

借方	元丁	勘定科目	貸方
90	(現金	
370		当座預金	
120		受取手形	
230		売掛金	
		貸倒引当金	2
275		有価証券	
200		繰越商	
450	省	貸付金	
50		ア	
2,000		建物	
		建物減価償却累計額	イ ウ エ
1,000		備品	
		備品減価償却累計額	200
1,250		土地	
		支払手形	85
		買掛金	310
		仮受金	13
		社債	()
		資本	3,000
		資本準備金	480
	略	利益準備金	260
		別途積立金	150
		繰越利益剰余金	360
2,500		売上	3,540
445		仕入	
10		給料	
60		水道	
15	(社債	
		消耗品	
		光熱費	
		利息	
9,065			9,065

資料2 修正事項

決算整理に先立ち、次の(1)~(3)の事項が判明したので、適切に処理する。

(資料1の残高試算表には反映されていない。)

- (1) 買掛金の支払いのため、仕入先山形商事あての約束手形¥4を振り出していたが、誤って貸借を反対に記帳していた。
- (2) 現金の実際有高は、¥89であった。帳簿残高との不一致のうち¥3は、水道光熱費の記帳もれであることが判明した。残額は、原因が不明であった。
- (3) 仮受金は、すべて商品の注文を受けた際に受け取った内金であった。

資料3 ×5年3月末における決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高は、¥195である。
- (2) 受取手形と売掛金の期末残高に対して、2%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (3) 建物は、すべて×1年4月1日に取得したものである。定額法(残存価額は取得原価の10%、耐用年数は30年)で減価償却を行う。
また、備品は、すべて×3年4月1日に取得したものである。定率法(償却率0.20)で減価償却を行う。
- (4) 有価証券は、すべて売買目的で保有する福島物産株式会社の株式5株(帳簿価額は1株につき¥55)であり、1株につき¥58に評価替えする。
- (5) 消耗品の未使用高は、¥2である。
- (6) 社債は、すべて×2年4月1日に額面総額¥500、額面¥100(単位:円)につき¥95(単位:円)、償還期限5年、利率年3%、利払い年2回(9月末日と3月末日)の条件で発行したものである。なお、額面金額と払込金額との差額は、償還期までの各会計期間にわたり、均等額を社債利息として配分している(償却原価法)。
- (7) 貸付金(利率年4%、貸付期間は1年)は、すべて×4年10月1日に貸し付けたものであり、利息は返済時に全額受け取る契約である。なお、利息の計算は月割りとする。
- (8) 当期の法人税、住民税および事業税の合計額¥90を計上する。なお、中間申告で法人税等¥50を納付している。

簿記・会計

資料4 ×5年3月末における損益勘定

		損	益	
3/31	仕入	2, オカキ	3/31 売上	3,540
"	給料	445	" 受取利息 ()	
"	貸倒引当金繰入	ク	" () ()	
"	減価償却費 ()	()	" 雑益 ソ	
"	消耗品費 ケ	()		
"	水道光熱費 ()	()		
"	社債利息 コサ	コサ		
"	()	90		
"	()	シスセ		
		()		

資料5 ×5年3月末における繰越試算表

繰越試算表

×5年3月31日

借方	元丁	勘定科目	貸方
89	(現金	
370		当座預金	
120		受取手形	
230		売掛金	
タチツ		貸倒引当金 ()	
195	省	有価証券	
()		繰越商品 ()	
450		貸付金	
テ		未収利息	
2,000		建物	
		建物減価償却累計額	240
1,000		備品	
		備品減価償却累計額 ナニヌ	
1,250		土地	
		支払手形 ()	
		買掛金 ネノハ	
		()	40
	略	ト	13
		社債	490
		資本金	3,000
		資本準備金	480
		利益準備金	260
		別途積立金	150
		繰越利益剰余金	570
6,005)		6,005

問 1 資料 1 の ア , 資料 5 の ト に当てはまる勘定科目を, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア , ト の解答群

① 立替金	④ 預り金	② 仮払法人税等
③ 未払法人税等	⑤ 前受金	⑥ 前払金

問 2 資料 1 の イ ~ エ , 資料 4 の オ ~ ソ , 資料 5 の タ ~ テ , ナ ~ ハ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 3 ×5年4月1日に, 社債(資料 3 (6)を参照)のうち額面金額 ¥ 200 を, 額面 ¥ 100(単位:円)につき ¥ 97(単位:円)で小切手を振り出して買入償還した。社債償還損益に関する勘定科目と金額の組合せとして正しいものを, 次の解答群のうちから一つ選べ。 ヒ

ヒ の解答群

① 社債償還損 ¥ 6	④ 社債償還益 ¥ 6
② 社債償還損 ¥ 2	⑤ 社債償還益 ¥ 2

問 4 ×5年6月27日の株主総会において, 繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。

配当金 ¥ 110
利益準備金 会社法規定の額を計上する。
別途積立金 ¥ 20

なお, 同社の資本金, 資本準備金および利益準備金の金額は, 資料 5 の金額から変動はない。

この取引の仕訳は, 次のとおりである。 フ ・ ヘ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

(借) 繰越利益剰余金 ()	(貸) 未払配当金	110
	利益準備金	フ
	別途積立金	ヘ
		20